



ネイチャーセンターだより

2023年4月号

新・いきもの図鑑



キバナノアマナ（黄花甘菜）

直径約2cmの小さな黄色い花をつけるユリ科の植物。一株から2～10個の花が枝分かれしてつき、まるで地面に黄色い星が散るように咲きます。低地から山地のやや湿った日の当たる場所に生育し、春国岱ネイチャーセンター隣の東梅自然学習林では、例年4月下旬に咲き始めます。フクジュソウやザゼンソウなどと同じく、「春植物」や「スプリング・エフェメラル」と呼ばれるもののひとつで、他の植物が葉を出す前、花を咲かせます。約2か月葉を開いた後、まわりの草木がしげって林が暗くなると地上部が枯れ、翌年の春までを地下で過ごします。

キバナノアマナはチューリップの遠い親戚です。見た目は大きく異なりますが、葉がやや多肉質で粉を吹いたように白いところはチューリップを連想させるかもしれません。

【参考文献】梅沢俊、2012. 新北海道の花。北海道大学出版会。
高橋勝雄、2003. 山溪名前図鑑野草の名前春。山と溪谷社。

フィールド講座

トピックス

「ラムサール条約湿地から見た世界」を実施（3月5日）

今年度2回目のフィールド講座は、2025年の風蓮湖・春国岱ラムサール条約湿地登録20周年を前に、改めてこの条約について学ぼうという趣旨で開催しました。

講師の小林聡史先生は、1990年代にラムサール条約の事務局で2回の締約国会議（COP）の準備運営に携われ、その後も釧路公立大で条約の普及や条約湿地の保全の研究をされてきた第一人者です。お話は、締約国会議の歴史から、ラムサール条約超入門、そして世界と日本の湿地保全の事例と多岐にわたりました。

資料としてラムサール条約の日本語訳全文を配布しましたが、その短さに驚いた方も多かったと思います。条約における湿地の定義はかなり大雑把で、言語や文化によりイメージが異なるといったお話もありました。昨秋のCOP14と1993年のCOP5釧路会議で、ウクライナの湿地保全の決議が出された（ロシアの侵攻とウクライナの独立に関連して）という興味深いエピソードも紹介されました。

17名の参加者の皆さんからは、「ヨーロッパと北米で湿地の定義が違ってももしろい」「ラムサール条約は大きくなりで細分化されていないことに驚いた」「湿地とつながる森林や湖も湿地として扱うというのは、なるほどと思った」といった感想をいただきました。



見どころMAP



- 観察路 (ヒバリコース1.2km、約25分)
- 観察路 (ハマナスコース1.4km、約30分)
- 観察路 (キタキツネコース0.8km、約20分)
- 観察路 (アカエゾマツコース0.5km、約15分)
- 観察路 (小鳥の小道1.4km、約30分)
- 作業路 (春国岱上は車両進入禁止)
- ★ 根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター (入館無料)
- ★ 東梅野鳥観察舎 (東梅ハイド)

4月の見どころ予報

- 凡例
- ◎ ぜったい見られる (と思う)
 - ちょっと気をつければ見られる
 - + よく気をつければ見られる
 - ・ めったに見られない

オオワシ オジロワシ	+	オオワシは、ロシア極東のサハリンやカムチャツカ半島などで繁殖をするため、風蓮湖を去りほとんど見かけなくなります。
	+	オジロワシも渡っていきますが、少数は風蓮湖周辺に残り、子育てをしています。
タンチョウ	○	春国岱周辺の湿地や干潟などで採食している様子や、休む様子がよく見られます。4月は、交尾・産卵の時期で、デリケートなため、観察の際は十分な距離をとってください。
オオハクチョウ	○	風蓮湖ではアマモを採食し、十分に栄養を蓄えてから4月中旬までに繁殖地のカムチャツカ半島などに渡ります。昨年生まれの若鳥は、羽が灰色から白に生え換わる途中です。
カモ類	○	渡り途中のオナガガモ・ヒドリガモが多く、1,000羽近い群れになることもあります。群の中には、同じ渡り途中のハシビロガモ・コガモ・ウミアイサ、夏鳥のマガモなど他のカモ類が混ざっています。
ミヤコドリ	○	昨年の初認日は、4月8日。例年、4月下旬が渡来数のピークとなり、近年は50羽以上が風蓮湖や根室湾の干潟で見られます。
春国岱	森	森からルリビタキやミソサザイのさえずりが聞こえるようになります。運が良いとクマガラの鳴き声やドラミングも聞こえるかもしれません。
	草原	海岸の草原ではヒバリのさえずりがよく聞かれます。風蓮湖周りでは、夏鳥のノビタキやオオジュリン、旅鳥のタヒバリなどに出会えます。
自然学習林	野鳥	夏鳥のウグイス、ミソサザイ、アオジのさえずりを聞けるようになります。その他に、ハシブトガラ、シジュウカラ、ヒガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、キツキ類(アカゲラ・コゲラ・オオアカゲラ)が見られます。
	花	キタミフクジュソウ(今年、3月17日開花)。ザゼンソウ(昨年、4月12日開花)、エゾエンゴサク(昨年、4月19日開花)・キバナノアマナ(昨年、4月26日開花)。

2023年冬のオオワシ・オジロワシの越冬状況

NEWS



ネイチャーセンターではオオワシ・オジロワシの全国有数の越冬地風蓮湖と温根沼で、毎年1月下旬から2月下旬にかけて4回、その羽数を数えています。この冬の調査結果は図1のとおりです。

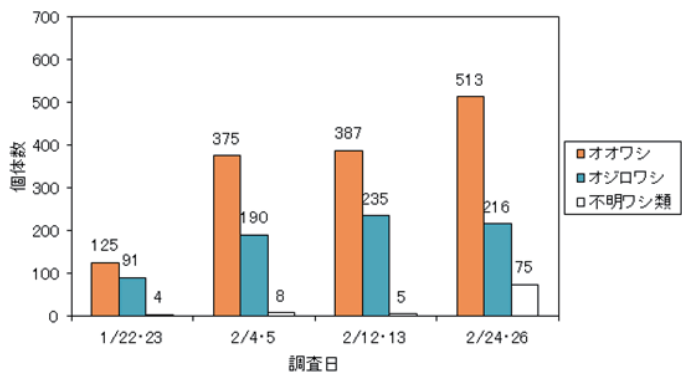


図1 2023年冬のオオワシ・オジロワシの数（風蓮湖・温根沼）

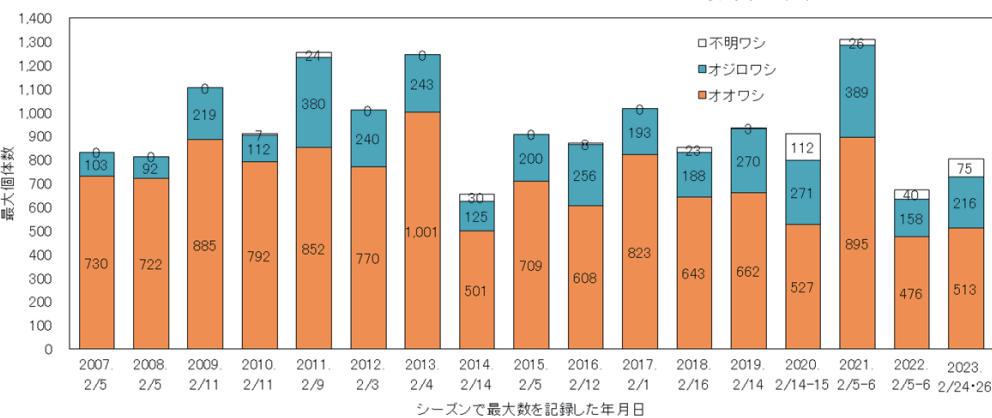


図2 風蓮湖と温根沼の冬のオオワシ・オジロワシの最大数の移り変わり

今冬は湖の凍り始めが遅く、1月下旬の時点ではほとんどの地点で氷下待ち網漁が始まっていませんでした。ワシ類は漁のおこぼれの魚をねらって凍った湖にやってくるものが多いので、1月下旬は両種とも非常に数が少なく、2月上・中旬も少なめでした。オオワシは2月下旬の513羽がシーズン最大（過去5年の最大値の平均は640.6羽）、オジロワシは2月中旬の235羽が最大値（過去5年の最大値の平均は255.2羽）でした。通常の年は、2月中旬がピークになることが多いので、この点でも特異な冬だったと言えます。

ワシ類の湖の周囲での越冬数は、漁業活動（氷下待ち網漁）に影響を受けていると思われるのですが、氷下待ち網漁は、氷が張るのが遅いといった気候の影響を受けています。冬の温かさは、人間活動により出された二酸化炭素などの温室効果ガスの影響の可能性がります。

自然の中で孤高に暮らしているように思えるワシたちは、二重・三重にも人間の影響を受けているのかもしれない。

根室市内で3/1「高病原性鳥インフルエンザ」発生

3月1日、根室市内で保護されたオジロワシ1羽から、高病原性鳥インフルエンザのウイルスが見つかりました。今年度はこれが市内で初めての発見でしたが、道内では3月17日現在で30例に達しています。ウイルスが見つかった鳥類は、ハシブトガラス12例、オジロワシ6例、ハヤブサ4例、オオワシ1例と、他の鳥を食べる種類（死体を含め）が上位を占め、種不明のガンカモ類のフン2例、マガモ1例、オオセグロカモメ2例、タンチョウ1例からも見つかりました。

全国では222例もの発見例があり、養鶏場での発生も過去最悪の81件（ニワトリの殺処分数は約1,645万羽）に達しています（3月24日現在）。4月はカモ類が大群で根室に渡来しますので、水辺で野鳥観察をする場合には引き続き、次のことにご注意ください。

1. 生きていた野鳥や野鳥の死体には、素手でさわらない。
2. 野鳥のフンや羽毛をできるだけふまない、さわらないようにする。もしさわった場合は、流水とせっけんで手をよく洗い、うがいをする。
3. 野外観察の後は、くつの底や車のタイヤをしっかりと洗い、アルコールやうすめた塩素系の漂白剤などで消毒する。帰りに動物園や農場には立ち寄らない。
4. 弱った野鳥や死んだ鳥を見つけた場合は、できれば、根室振興局に場所や状況を知らせる（電話0153-23-6823 / 休日の場合は24-0259）。

※野鳥における高病原性鳥インフルエンザに関する最新情報は、環境省のウェブサイトをご覧ください。

https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/index.html

（文責：チーフレンジャー 古南幸弘）



★春国岱ネイチャーセンターのイベント情報★

◆4/8～4/23 第28回 タンチョウイラスト展

公益財団法人日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ主催で、タンチョウが生息する地域の小中学生に、タンチョウへの興味・関心を深めてもらうためイラストを募集しました。子供たちの素敵な作品 230 点を通して、ぜひタンチョウの魅力に触れてみてください。



◇開催期間：4月8日（土）～4月23日（日） 9：00～17：00

※毎週水曜日は休館日

◇場 所：春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター 2階

◇主 催：公益財団法人日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ

◆GW イベント予告！ 5/3～5/7 小鳥の小道たからさがしラリー（事前申込不要）

東梅自然学習林でおたからをさがそう！ネイチャーセンターで宝の地図をうけとって、小鳥の小道（1.4km）を一周する間に、いろんな自然のお宝をさがして来てください。全部の写真をとれた人には、野鳥のポストカードをプレゼント！当日、ネイチャーセンターで受付してください。

◇開催期間：5月3日（水・祝）～5月7日（日）

◇受付時間：9：00～16：00

◇受付場所：春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター

◇対 象：子どもから大人までどなたでも

◇服装・持ち物：長ぐつ、長そで、長ズボン、ぼうし；歩きやすい服装で来てください。
カメラ（デジカメやカメラのついたけたい電話）、虫よけスプレー。

◇参加費：無料



募集中！

ボランティア『スंक』

春国岱ネイチャーセンターでは、施設ボランティアグループ『スंक』で活動して下さる方を随時募集しています。

『スंक』は、ネイチャーセンター周辺の自然を自らが楽しみ、環境保全について学び行動することを目的として活動しています。月に1回（基本的に第3火曜日）の定例会で、自然学習林の巡回や道標・樹名板などの管理を行ったり、市民向けのイベントを企画したりしています。熱いながらもゆるい楽しい集まりです。

ボランティアに興味のある方、定例会の見学ご希望の方は、ネイチャーセンターまでお問合せください。

◆対象：18歳以上

◆年会費（ボランティア保険料含む）：1,000円

フィールドマナーを守って

自然や生きものが安心して暮らせるように…

- 春国岱の駐車場から奥は、一般車両の乗り入れは法律で禁止されています
- 観察路からはずれないようにしてください
- 動植物の採取や捕獲はしないでください
- ゴミはお持ち帰りください
- 禁煙にご協力ください
- キタキツネやエゾシカ、野鳥など野生動物の生息地です。またマダニも多く生息しています。ペットを持ち込んだり、放したりすることはご遠慮ください



根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター（入館無料）

〒086-0074 北海道根室市東梅 103 番地

TEL：0153-25-3047 FAX：0153-25-8570

Eメール：nemu_nc@marimo.or.jp

HP http://www.marimo.or.jp/~nemu_nc/workn/index.html

Facebook <https://www.facebook.com/shunkunitai/>

◆開館時間 9：00～17：00（4～9月）

◆休館日：（毎週水曜日、祝日の翌日（土・日を除く）、水曜日が祝日の場合翌々日）

4月5・12・19・26・28日 5月8～12・17・24・31日

◆団体でご利用の方へ（事前予約制・2週間前までにご連絡ください）

自然観察の案内や室内でのレクチャーなどのプログラムをご利用いただけます。



ラムサール条約湿地

風蓮湖・春国岱

2005年11月登録